INAXライブミュージアム

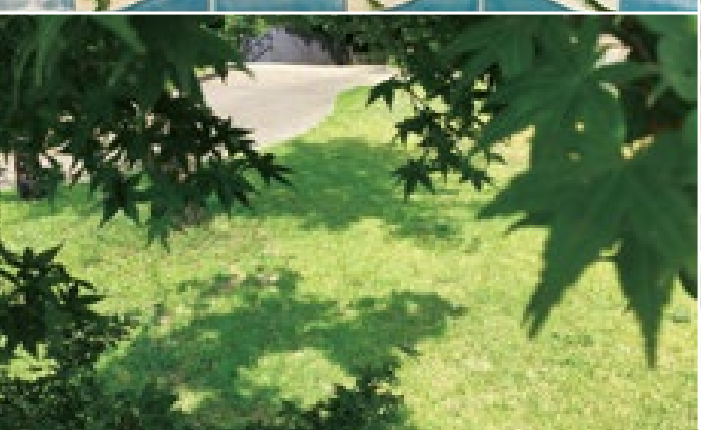
NEWS LETTER

INAX MUSEUMS

vol.49 APR. 2019

特集 **五感を磨く**—みず遊び・どろんこ遊び

Sharpening the Five Senses with Water and Mud Play



INAXライブミュージアム
NEWS LETTER
vol.49 APR.2019

CONTENTS

01 特集 五感を磨く—みず遊び・どろんこ遊び
Sharpening the Five Senses with Water and Mud Play

06 Live SCHEDULE これからの催し

ゴールデンウィークイベント 土と水の遊園地
Event planned for Golden Week (May 3 to 5):
Water and Mud Amusement Park

企画展 水を見る—秘めたるかたちと無限のちから
Exhibition: Seeing Water—Surprising Shapes, Unlimited Power

どろの遊園地2019—子どもは遊びの天才だ！
2019 Mud Amusement Park—Children are geniuses at play!

07 Live REPORT 開催報告

REPORT 01 企画展 和製マジョリカタイル—憧れの連鎖
Exhibition: Japan-made Majolica Tiles–Trail of Inspiration

オープニングイベント・講演会
台湾のマジョリカタイルの歴史と展望
Opening Event: History and development of majolica tiles in Taiwan

関連イベント・講演会
世界へ羽ばたいたマジョリカタイルと装飾タイル最新事情
Lecture: How Majolica Tiles Won Favor around the World and Recent Decorative Tile Trends

08 REPORT 02 光るどろだんご大会 中部地区大会
2018 Central Japan championship for making shiny clay balls

REPORT 03 光るどろだんご全国大会2018
2018 National championship for making shiny clay balls

09 REPORT 04 第9回「陶と灯の日」
The Ninth Pottery and Lamp Day

REPORT 05 フィンランドからサンタクロースがやってくる！
Santa Claus comes from Finland!

［表紙写真］

1 企画展「和製マジョリカタイル—憧れの連鎖」会場
2 企画展のために復元したマジョリカタイル
3 陶楽工房へ至る道

ライブミュージアムに吹く風 Fresh perspectives at INAX MUSEUMS 5

ミュージアムは「市民の応接間」
Museums as a Drawing Room

1997年、かつて鉄のまちとして栄えたスペインの都市ビルバオに前衛的な美術館が出現した。現代建築の巨匠が設計した個性的な建物もさることながら、大変ユニークな作品展示が多く観光客は激増。造船所の跡地を見事に甦らせ市民の憩いの場ともなった。時を同じくして、やきもののまち常滑に「世界のタイル博物館」が開館した。以後発展を重ね、かつてタイルの工場であった土地が現在は全6館で年間7万人以上が訪れる場所へと変貌した。館内では四季を通じて折々の花が咲き、あちこちで子どもの声が聞かれる。兵庫県立美術館 館長の蓑豊氏曰く、「美術館は誰でも“ぶらり”と立ち寄れるような憩いの場、『市民の応接間』でなければならない。」企業博物館でも同様であろう。経済を取り巻く環境が変化しても、文化活動で地域社会に貢献していく姿勢は変わらずにいたい。

In 1997, an innovative art museum was opened in Bilbao, Spain, at the site of an old shipyard. The museum became a place where the people of Bilbao could rest and relax. As Yutaka Mino, director of the Hyogo Prefectural Museum of Art, comments, “Art museums should be like a drawing room for citizens, a place open to everyone and where anybody can drop in.” The opening of the Tile Museum in the INAX Museums coincided with the opening of the Bilbao museum. As a corporate museum, we would like to remain committed to the community through cultural activities, even when there is a downturn in the economy.

Ayako Uchizawa 内沢 礼子（セールス&マーケティング担当 Sales and Marketing）

特集 Sharpening the Five Senses with Water and Mud Play

五感を磨く

みず遊び・どろんこ遊び

外に出て遊びたくなる季節がやってきます。
INAXライブミュージアムでは、毎夏、子どもたちがどろんこになって遊ぶワークショップ「どろの遊園地」を開催しています。
夢中になって、どろと遊ぶ子どもたち――
いったい何が、子どもたちをそんなに夢中にさせるのでしょう。
子どもの発達にとって、土、水、火といった自然素材で遊ぶことは、どんな意味があるのでしょう。
子どもの遊びの研究者、竹井 史先生（同志社女子大学教授）に解き明かしていただきます。

自然素材を使った遊びは、なぜ大切？

自然素材は、なかなか思い通りになりません。「粘土」を例にとると、図工などで使う化学的に作られた“油粘土”は子どもにとって、自由な造形ができるとても使いやすい良い素材です。かたや自然素材の“土粘土”は、水分が少ないとガサガサするし、水を入れ過ぎるとドロドロになってしまう扱いにくい素材です。

「土の声を聞く」と私は言っていますが、子どもたちは、土遊びを通じて自然に寄り添い、土と水とのいちばん良い状態を学んでいきます。学んだ結果は子どもたちの遊びに返って、もっと楽しく遊べるようになる。つまり、子どもと土という自然とのインタラクティブな関係ができてくるのです。

子どもたちが豊かな土遊びをすることは、人間と自然環境がどう関わっていったらいいかという、環境教育の原体験につながっていくと思っています。

竹井 史先生 Hitoshi Takei

自然素材を使った幼児の造形・遊びを専門とし、ものづくりを中心としたさまざまなイベントを主宰。子どもたちが何に心を動かし、どう成長するのかについて研究をされています。富山大学教授、愛知教育大学教授を経て、現・同志社女子大学現代社会学部現代こども学科教授。
タケイラボ https://www.takeilab.com

ワークショップ「どろの遊園地」で「どろ田」を楽しむ子どもたち。

まずは、

みず遊び

「水は気持ちいい」がベース

水は、子どもたちがいちばん最初に接する自然素材と言ってもいいでしょう。自由に形を変えるので、いろんな遊びを誘発してくれます。ベースにあるのは、水は気持ちがいいという経験です。

日常でいうなら、お風呂でも遊べますね。ミニペットボトルを沈めて手を離すとポンっと飛び出す。感覚遊びの一つです。それから派生する知的な遊びの一つに、容器に水を入れて移し替える遊びもあります。このコップには入るのに、こっちの器だとあふれちゃう。それで形と体積の関係みたいなものが学んでいける。水は子どもたちにとって、とても学びの多い素材です。

「オレンジジュースどうぞ！」

土を使った色水遊びもします。子どもたちが水に土を入れて混ぜて、「オレンジジュースどうぞ!」とくれます。何回も繰り返すなかで、「先生はコーヒーが欲しいな、入れてくれる?」と言ってみる。しかし、たいていの子どもはまた同じ濃度のものを持ってきます。「これ、さっきくれたジュースと同じ色じゃない?」と言う。すると子どもたちは、「これがコーヒー？って言われたよ。どうしよう…」と考えます。そして、もっと土を入れるのか、あるいは黒っぽい土を入れるのか、悩みながらもやってみる。それが学びにつながっていると思います。

1

遊びの世界

感覚遊び・ものをつくる遊び・ごっこ遊び

自然素材を使った遊びの中には、「感覚遊び」、「ものをつくる遊び」、そして、ものを媒介とするお店やさんごっこなど「ごっこ遊び」での人間関係づくり、その３種類があります。

年齢が低いほど感覚遊びの要素は多いですが、この3つは段階的に別の遊びに移っていくというより、常に子どもの中にあって、その割合が時々で変わっていくのです。ただ、感覚遊びを十分にしてこなかった子どもは、成長しても、感覚遊びが大きなウエイトを占めるようです。大学生が子どもたちと同じように、大喜びしながらどろ遊びをすることがあります。それは、そういう経験をしてきていないことも理由の一つだろうと思います。

2

3

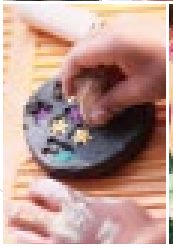
1-3 自然素材を使った竹井先生の遊びのいろいろ。
1. 色水遊び
2. どろんこレストラン
3. 土や花を使ったおいしそうなアースケーキづくり

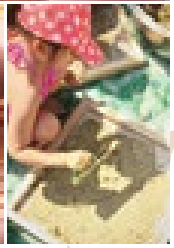
（タケイラボ提供）

4-10 夏休みに人気のワークショップ「どろの遊園地」。京都造形芸術大学の先生・学生やボランティアが、子どもたちをどろんこ遊びに誘い見守る。「どろ田」「どろ化粧」「どろだんご」「どろメダル」など、土のアトラクションが子どもたちに大人気。

＊内容は年ごとに変わります。

4


5


6

7

8

9

10

そして、どろ遊び

人を幸せにする極上のどろの感覚

粘土質の土は気持ちがいいですね。水を入れてどろになると、ニュルニュルしてもっと気持ちよくなります。人間は土と接することで、ものすごく幸せになれます。人間に生まれてきて、この極上のどろの感覚を経験したことがないなんて残念。僕はこういう自然素材の素敵さを子どもたちに教えてあげたいと思うんです。「こんな気持ちいいことがあるよ」と。

眠っている感性を引き出す

どろ山があっても近寄れない子どもたちがいます。気持ち悪いもん、お母さんに怒られるもん、と。私は無理強いせず、「見ていていいよ」と言います。どろ山の面白さを知っている子どもたちは、ワーッと群がりますね。それを見ていると、見学している子たちもムズムズしてくる。1時間たったころに遊びに参加する子もいれば、1日、2日かかる子もいます。子どもたちの中に感性がなくなったのではなくて、眠っているだけ。それを引き出すのは大人の責任だと思っています。

知性は五感で得た情報から作られる

人間は、感性を働かせながら五感で得た情報をセレクトして自分の中に取り込んで、「知性」をつくっていきます。ところが、今の子どもたちの教育環境は、五感のなかの触覚に関わる体験がやせ細っています。2017年改訂の図工・美術の学習指導要領では、色と形に関わる資質・能力がクローズアップされた反面、触覚の部分が残された課題となっています。これは、子どもの教育のプロセスにおいて、触覚から取り入れる情報量が少なくなるということを意味しています。このままいくと大きな問題になっていくでしょう。

さまざまな触感のある土は、触覚の感覚体験をもつための最適な自然素材だと思っています。人工物は触覚も単調。そういう世界の中だけでは、子どもたちの感覚器官は育ちません。

「どろだんご」のできる土

粘性や可塑性がある土は、ぐっと握る、ただそれだけで遊びが発生します。子どもは土だけで、おだんごやお好み焼きやコーヒーを作ります。その中で、土の中に水をどれぐらい入れたら自分が作りたい粘性になるかを考える。それが大事なんです。ただ、そういうことができる土が身近にあるかが問題です。

今は、子どもを取りまく土環境がとても貧しい。昔の園庭は雨が降ると水溜まりができました。今は、水溜まりができないように、砂場と同じような粗い砂を入れます。水を加えてもどろだんごはできません。水がスッと引いて外遊びはできる。でも引き換えに、土遊びができなくなってしまった。それを補完するような土環境を考えなくてはなりません。

11

必ずしも成功しないという体験

自然との関わりの良いところは、「必ずしも成功しない」ということです。失敗も含めて、そのプロセスの中で学んでいくことが多い。どろだんごを作っても、割れるときがあります。油粘土で作れば割れないので一面的ですね。せっかく作ったどろだんごが割れて、自分の命が失われたぐらい泣き叫ぶような感情体験があって、でも「がんばってまた明日つくろう」と再び挑戦する。何回もチャレンジして工夫して、そこで学んで成功していく。

成功するのが当たり前という教育プログラムが多いなか、そんな経験ができるのも自然体験の良さなんです。

12

11 2012年の「どろの遊園地」では、土・どろんこ館の企画展示室を子どもたちに開放。壁3面を自由に使って粘土アートを完成させた。

12 園庭で土と遊ぶ子どもたち（タケイラボ提供）

13・14 ワークショップ「土と足で遊ぶアート体験」(2012)では、足の裏に色どろをつけてみんなで大きな絵を描いた。

13

14

おまけ
火の話

危ないからと火を遠ざけすぎたあまり、今の子どもたちは火の恐さを知らなくなりました。僕は保育所や幼稚園で、地面で直接やきものを焼く「野焼き」をよくやります。木の命がやきものに移っていくような、神秘的で感動的な体験です。

その横で、焼いもやパンや魚を焼いて、火に関わる食の体験もいっしょにするんです。子どもたちには、ぜひさせてあげたいことです。

INAXライブミュージアム「ナイトミュージアム」で夜のミュージアムを探検したあとには、炭火でマシュマロを焼いて食べます。

土のパステルづくり

ライブミュージアムでは、産地の異なる6種類のやきものの土を使った「土のパステルづくり」が体験できます。自然のやさしい色合いはもちろん、それぞれの土が持つ個性的な感触を楽しんでいただけます。

「日本の土は場所によって色が違うのが特徴です。人間は『色』を自然のめぐみの中から得てきました。土のパステルは、色がどこから来たのかがわかる、非常にいい教材だと思います」と、竹井先生にも言っていただきました。

「土のパステルづくり」800円／1セット
（6種：備前、萩、栗田、白磁、朱泥、黒泥）

Sharpening the Five Senses with Water and Mud Play

A workshop called "Mud Amusement Park" is held at the INAX Museums every summer. Children love to play in the mud. What makes mud so fascinating? How does playing with natural materials impact children's development? We spoke with Professor Hitoshi Takei, a specialist in children's play and development, to find the answers.

Water, the first type of play

"Water feels good"

Water is probably the first natural material that children come into contact with. Water changes shape freely and is therefore conducive to various types of play. Children play with water because it feels good; immersion in water is soothing. In the bathtub, you can lower a small plastic bottle into the water and let go of it. Children love the sounds, sights, and touch of this sensory play. Transferring water into different containers is play that requires more thinking and thought. Water offers an abundance of learning opportunities for children.

"Have some orange juice!"

Children mix soil and water together and serve it to me saying, "Have some orange juice!" When this happens, I tell them that I'd like some coffee. Most children bring me another cup with the same mixture. When I tell them the color is the same, they then think about what they should do—whether they should add soil or use a darker soil. This is how they learn.

Mud play

Drawing out dormant feelings

Clay soil feels good. I feel sorry for people who have not experienced the sublime sensation of touching and playing with fine, smooth mud. I want children to learn how wonderful our natural environment is. Some children are reluctant to go near a mud mountain. They call it "yucky" or say their mother will be angry if they do. I do not force them to do it and just tell them to watch. Children who know the fun of mud rush over to the mountain. Seeing this, the children who initially didn't want to play become curious to try. Some change their mind in an hour; others take a day or two. It's not that the feeling has died; it is there but dormant. I think that adults have a responsibility to draw this out.

Intelligence is the product of information acquired through the five senses

A person's feelings impact the process of selecting and internalizing information acquired with their five senses. This is how intelligence is cultivated. Children today have limited chances for tactile experiences. Dirt is an ideal medium for this because there are so many different types of it. The touch of artificial objects is monotonous. Children's sensory organs cannot develop in such a world where materials are so limited.

The soil for mud balls

Soil that has viscosity and plasticity can be squeezed hard. Even this is play. Children make balls or coffee out of soil. The difference between the two is the amount of water mixed in. Children have to think about how much water they should add to get the desired thickness.

Why is playing with natural materials important?

Natural materials are not easy to use. Oil-based clay can be shaped easily, but soil is difficult to handle. The surface becomes rough if there is not enough moisture and muddy if there is too much. Children learn about nature when they play in the soil, and they also find out what the best conditions for mixing soil and water are. The knowledge they acquire makes playing with soil even more fun. An interactive relationship with soil, which is an element of nature, develops. I believe that playing with natural materials is an important part of programs to encourage awareness and action for environmental issues because it can teach us how people should interact with the natural environment.

Hitoshi Takei
Professor, Department of Childhood Studies, Faculty of Contemporary Social Studies
Doshisha Women's College of Liberal Arts

Professor Takei specializes in young children's molding and play using natural materials and holds various events for creating things. His research is about what touches children's hearts and how they grow from those experiences.

(Photo)
Children happily play in the mud at the Mud Amusement Park workshop—Children are geniuses at play!" held at the INAX Museums every summer

This process is important. But the problem is whether this kind of soil is available nearby. In the old days, there were always puddles on the grounds of preschool play yards when it rained. Today, coarse sand like that used in sand boxes is spread on the ground so puddles cannot form. The water seeps away quickly, and the children do not have to wait long to go outside. But, they no longer have the chance to play with soil. We must provide them with a place where they can do this.

The importance of learning that things do not turn out as planned

Contact with nature teaches us that things do not always go as planned. Much can be learned in the process of doing something, even if it ends in failure. Children may scream or cry and get emotional when a mud ball that they painstakingly made falls apart. They try again and again, doing it in a different way, until they find out what works. Since many educational programs today are designed to let students succeed, experiences with nature are good because they can teach children that things do not always work out.

An additional thought: A few words about fire

We go to great lengths to keep children away from fire because it is dangerous. As a result children no longer fear fire. I often fire pottery directly on the grounds at preschools and kindergartens in a bonfire made from dried grass and wood. Seeing the life of wood transferring to the pottery is a mystical experience. I bake potatoes and bread on the side. I strongly believe children should have the experience of cooking food with fire.

Clay Pastels Workshop

The INAX Museums offer a workshop for making pastels from clays for six different types of pottery. The colors and textures differ depending on where the clay is from. According to Professor Takei, in Japan the color and texture of clay is different, depending on where it is from. People have been given the blessing of color from nature. Clay pastels are excellent because we can tell that each color is derived from a certain material.

企画展「水を見る―秘めたるかたちと無限のちから」

Exhibition: Seeing Water—Surprising Shapes, Unlimited Power

4.26 Fri.–9.24 Tue.　土・どろんこ館　企画展示室

「湯水のごとく」とは、空気と同様、ふんだんに使うことができるたとえです。生命の源であり、飲み、料理に使い、さまざまなものを洗い、流す。水は当たり前な存在すぎるため、断水や災害になって初めて水の大切さを思い出します。

同じように、広大な川や海を前にしたとき、その大きさゆえに「水」を感じることは稀です。しかし小川や細い樋の中を音を立て流れる様を見た際や、水車や噴水から落ちる先を目で追うとき、「かたち」や「ちから」、その美しさや水ならではの音に見とれたり感動を覚えることがあります。

水を見る喜びは、忘れていた私たちの源を懐かしく再認識しているからかもしれません。この展覧会では、水のかたちとちからを楽しく感じるためのヒントをご紹介します。

撮影：大川裕弘

Water is the source of life. We are moved by its forms, power, and the beauty and sounds of water.The joy we feel watching water is a reminder that it is the wellspring of life. In this exhibition we offer hints for enjoying the forms and power of water.

ゴールデンウィークイベント

土と水の遊園地

Event planned for Golden Week (May 3 to 5) :
Water and Mud Amusement Park

5.3 Fri./4 Sat./5 Sun.
土・どろんこ館前 どろんこ広場

土と水に触れ、戯れながら、子どもたちが自ら遊びを生みだし、自然素材の心地よさを体感するワークショップを開催します。土のかたまりに水鉄砲を当てて少しずつ崩したり、どろ遊びのために土と水を調合して、遊びやすい土をつくったり、いろいろなアトラクションを通じて、水と土の性質を体験します。

どろんこ広場には、インスタ映えする“ナイアガラの滝”も登場します。乞うご期待！

時　間：①10:30～11:30 ②12:30～13:30
　　③14:30～15:30（入れ替え制）
定　員：各回20名（3歳以上）
申込み：会場にて受付けます。
参加費：500円（税込）

A workshop on water and soil, will give children the chance to think up ways to play as they feel and play with water and experience the joy of water and soil. A miniature Niagara Falls will also be displayed at the Mud Park.

どろの遊園地 2019―子どもは遊びの天才だ！

2019 Mud Amusement Park—Children are geniuses at play!

8.17 Sat./18 Sun.　土・どろんこ館前 どろんこ広場

夏休み恒例、大人気のワークショップです。やきもの用粘土を満たした、ひんやり気持ちのいい「どろ田」、ワンポイントがかわいい「どろ化粧」など、この日ばかりは、どろんこになってもオッケー！ 今年も京都造形芸術大学のお兄さん、お姉さん、ボランティアと一緒に楽しく遊びましょう。

This workshop is a popular event held every summer. Have a great time playing in a field filled with the clay normally used for pottery and getting your face painted with mud.
Students from the Kyoto University of Art and Design and other volunteers will be there again this year to make it a super fun day!

Report 01

企画展「和製マジョリカタイル―憧れの連鎖」

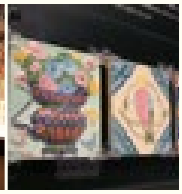
Exhibition: Japan-made Majolica Tiles—Trail of Inspiration

好評開催中 –2019.4.9 Tue.　土・どろんこ館　企画展示室

Current exhibition

「和製マジョリカタイル」は、主に大正初めから昭和10年代頃に日本で生産された多彩色レリーフタイルで、近代イギリス製の「ヴィクトリアンタイル」を模倣してつくられたものです。イギリス製タイルへの憧れから生まれた「和製マジョリカタイル」が、やがて世界のさまざまな地域で建築を彩り、根づく様子を紹介するとともに、復元品などによる「懐かしくも新しい」タイル空間を提案しました。

Japan-made majolica tiles, whose production was inspired by the Victorian tiles of Britain, can be found adorning buildings throughout the world. This exhibition looks at their early history and development and uses restored tiles to create a space both evocative of the past yet forward-looking.



オープニングイベント 講演会

「台湾のマジョリカタイルの歴史と展望」

Opening Event: History and development of majolica tiles in Taiwan

2018.11.2 Fri.　土・どろんこ館

講師：台湾花磚博物館（台湾タイル博物館）
館長　徐 嘉彬

和製マジョリカタイルは台湾でも、主に1915年から1935年の間、富と成功の象徴として、民家や寺院の外壁を装飾しました。徐嘉彬（シュイ・チアビン）さんは学生時代から20年以上、その収集、保存、再生に取り組んでいます。2016年9月には博物館を開館して1500点以上を展示するとともに、台湾のタイル文化を広く伝えています。「美しいものを残したいという思いからです。日本から来たマジョリカタイルと台湾文化の融合も素晴らしい」。

台湾のタイルの歴史や使用事例、絵柄の持つ意味、収集・保存活動、そして教育や他分野と協働した広報活動など、ユーモアを交えてたっぷり紹介してくださいました。

From 1915 to 1935, Japan-made majolica tiles were exported to Taiwan. James Hsu, the Director of the Museum of Old Taiwan Tiles, has collected, preserved, and reproduced Japan-made majolica tiles for over 20 years. He opened the museum in September 2016 with more than 1,500 pieces to promote understanding of and interest in Taiwan's tile culture.

関連イベント 講演会

「世界へ羽ばたいたマジョリカタイルと装飾タイル最新事情」

Lecture: How Majolica Tiles Won Favor around the World and Recent Decorative Tile Trends

2019.2.23 Sat.

世界のタイル博物館　講義室

講師：加藤郁美（月兎社）
平田雅利（株式会社平田タイル 取締役会長）

加藤氏

書籍編集者でタイル関連の著作でも知られる加藤さんと、100年の歴史を持つ老舗タイル店の平田さん。とっておきの話が聴けるとあって会場は満席となりました。加藤さんは和製マジョリカタイルの歴史をふりかえり、ヴィクトリアンタイルの模倣と言われる和製マジョリカタイルが、実は確かな技術と日本のオリジナルデザインが盛り込まれていたこと。世界各地のタイル展示会を巡る平田さんは、最新事情を紹介しながら、日本でもタイル文化をもっと醸成しなければならないと語りました。

平田氏

Ikumi Kato, and Masatoshi Hirata, gave a lecture to a full audience. Kato spoke about how the development of majolica tiles in Japan was made possible by its excellent technology and original designs, and Hirata introduced the latest trends in tiles globally.

Report 02

光るどろだんご大会 中部地区大会

2018 Central Japan championship for making shiny clay balls

2018.9.17 Mon.
土・どろんこ館

全国屈指の実力者揃いと言われる中部地区。24名が全国大会への出場をかけて競いました。「削り」では、きれいな真球をつくるため、何度も形を確認し、「色付け」では、持参の道具でオリジナリティを出す人も。最後の「磨き」では、大人も、最年少の7歳の少年も、集中力を欠くことなく最後まで磨きあげました。年々、親子、きょうだいでの参加が増え、今回も、親子ダブル受賞や家族参加のお母さんの受賞があるなど、なごやかな雰囲気に包まれました。最優秀賞の馬場睦子さんは2回目の挑戦で全国大会出場を果たしました。

Twenty-four people took part in the central Japan regional championship for making shiny clay balls in the hope of advancing to the national championship. The participants, including adults and children as young as seven, remained absorbed throughout the process of shaping, coloring, and polishing the balls.

最優秀賞

馬場睦子さん
「クリームソーダ」

優秀賞

橋本花里奈さん
「海の中」

尾上元美さん
「緑～えにし」

Report 03

光るどろだんご全国大会2018

2018 National championship for making shiny clay balls

2018.11.25 Sun.
中部国際空港セントレア イベント広場
主催：LIXIL、共催：中部国際空港

26都府県38会場での地区予選を勝ち抜いた29名が全国大会に臨みました。会場は、中部国際空港セントレア。大型スクリーンに制作に打ち込む選手たちの姿が映し出されるのもセントレア会場ならではです。空港利用客も興味深げに見守るなか、選手のみなさんは自分のペースを崩さず、テーブルを回る司会者のインタビューにも丁寧に制作意図や入賞への期待を語りながら作品を完成させました。

今大会では「どろだんごEXPO」を同時開催。空港を訪れる多くの人に「光るどろだんご」の魅力を発信しました。最優秀賞は、愛媛県代表の三好夢歌さん。2014年に続いて再びの受賞で、審査委員長の三木きよ子先生からも「想像力を掻き立てる作品」と評価されました。

最優秀賞	三好夢歌さん	愛媛県	「昔の遊び」
優秀賞	吉田由希枝さん	岩手県	「銀河鉄道の夜」
	馬場睦子さん	愛知県	「天空の紅葉」
優良賞	国竹 潤さん	広島県	「空にうつしだされたきょうりゅう」
	信部佐和子さん	兵庫県	「希望のあさやけ」
	尾上元美さん	愛知県	「常滑秋宵」
LIXIL賞	伊藤 朔さん	長崎県	「ひょっこりクシル」
セントレア賞	赤川紘菜さん	埼玉県	「夜のゆきだるま」
三木きよ子審査員特別賞	橋本花里奈さん	愛知県	「地球」
どろだんごEXPO賞	岩崎久代さん	岡山県	「天空に舞う神秘のオーロラ」

最優秀賞

三好夢歌さん

優秀賞

吉田由希枝さん

馬場睦子さん

All-Japan national championship held at Chubu Centrair International Airport in Aichi Prefecture. The competition was shown on a giant screen, and passersby could be seen watching the screen intently. A Clay Ball Expo was also organized as part of the 2018 national championship to introduce the beauty of the clay balls.

光るどろだんご Shiny Clay Ball Workshop ［予約制］

春のテーマ「里の春」―もも色― 3.1 Fri.～5.31 Fri.

The Theme for Spring: Spring in the Village –Pink–

少しずつ暖かくなってくると、なんだかうきうきしてきます。
小さい頃遊んだふるさとの春、お花見の思い出、芝生に寝転がって空を見上げたこと、小川でめだかと遊んだこと…。そんな春の空気を土のだんごで表現してみましょう。

夏のテーマ「水辺」 6.1 Sat.～8.31 Sat.

The Theme for Summer: Waterside

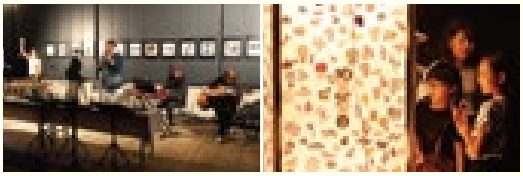
波打ち際、渓流、滝など、人は水辺にたたずむと心癒されます。
思い出の場所を想像しながら、どろだんごで水辺を表現してみてください。

料　金：800円／個（税込）
お問合せ・ご予約：web、お電話、「土・どろんこ館」受付にて TEL0569-34-6858

Report 04

第9回「陶と灯の日」
The Ninth Pottery and Lamp Day

2018.10.10 Wed.
窯のある広場・どろんこ広場



雨上がりのさわやかな会場。カウントダウンに合わせていっせいに照明が点灯し、子どもたちの歓声が上がります。今回は常滑東小学校4年生142名もランプシェードを制作しました。続いて、演奏家によるセッション。ハンドベルの清らかな音色が会場を包みました。どろんこ広場には、市民が絵を描いて制作した「灯(あかり)の塔」、そして常滑焼の物知り小学生を決定する「常滑焼クイズ王選手権」も開催。1500個のLED照明が生み出す幻想的な光のなかで、来場者はやきものの街・常滑の歴史と未来に思いを馳せました。

＊毎年10月10日、故伊奈長三郎氏（初代常滑市長・伊奈製陶創業者）の命日に開催。常滑焼の歴史を築いた先人に感謝し、未来に希望を託す一日。

The event takes place on October 10 every year to mark the anniversary of the death of Chozaburo Ina, the first mayor of Tokoname City and founder of Ina Seito Co., Ltd. It is held to give thanks to the people who shaped the history of Tokaname pottery and to express hope for the city and industry's future.

Report 05

フィンランドから サンタクロースがやってくる！
Santa Claus comes from Finland!

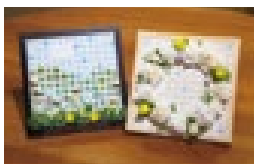
2018.12.9 Sun.
世界のタイル博物館

「サンタさんに会いたい」と、期待に胸をふくらませた子どもたちが、開館を待ちわびて長い列をつくりました。この日は、ライブミュージアムのいろいろな館をめぐって、アトラクションカードを完成させると、サンタさんから素敵なプレゼントがもらえるというイベント。「このマークある？」「みつけた、みつけた」「次に行こう」。できあがったカードを持ってサンタさんのところに駆けつけて、プレゼントと記念撮影。笑顔いっぱいの一足早いクリスマスとなりました。

On December 9 children who visited the INAX Museums and got their “attraction card” completely stamped by going to all five halls got to meet Santa Claus and receive a present from him. The children were overjoyed to see Santa and get an early start on Christmas.

陶楽工房 Tiling Workshop

「夏のデコモザイク」
Decorative Mosaics of Summer
7.1 Mon.～8.31 Sat.　［予約制］



グリーンのドライリーフを使って初夏をイメージしたり、貝殻やガラスビーズを使って真夏をイメージしたり。季節を先取りして、玄関やお部屋のインテリアにさりげなく飾ってはいかがでしょう。

料　金：2,500円／個（税・材料費込）
サイズ（外寸）：17×17cm
所要時間：1.5時間
お問合せ：陶楽工房 TEL0569-34-7519

MUSEUM SHOP
ミュージアムショップ

ガラス ペーパーウェイト
Glass paper weights

和製マジョリカタイルの図案がガラスペーパーウェイトになりました。タイルの美しいデザインがデスクを彩ります。贈り物にもおすすめのお品です。

サイズ 7×7cm 厚み2cm　全12柄 各1,850円（税別）

ミュージアムショップの商品をオンラインサイトにてご購入いただけるようになりました。
https://www.care-goods.lixil-online.com/house/ilm/

素材の持ち味を活かした料理を提供する
Cuisine that captures the full flavor of the ingredients

pizzeria la fornace
ピッツェリア ラ・フォルナーチェ

●ピッツァ／プロシュートインサラータ　●パスタ／アラビアータ

みずみずしい葉野菜と生ハムが目に映えるピッツア。辛味のあるトマトソースが食欲を誘うパスタ。見ても、食べても美味しい春のディナーメニューです。

Lunch time:　11:00–14:30 L.O.
Café time:　10:00–11:00,14:30–17:15 L.O.
Dinner time:　土・日・祝日 17:30–20:00 L.O.
水曜日休（祝日は営業）TEL0569-34-8266

INAXライブミュージアム NEWS LETTER vol.49　編集：編集企画室 群　デザイン：三矢千穂　印刷：凸版印刷株式会社

museum collection
ミュージアムコレクション

49

ミュシャ「月桂樹」タイル

Mucha's "Laurel" Tile

「ミュシャ」という商品名で制作されたタイルです。モチーフは、チェコを故郷とし主にパリで活躍したアール・ヌーヴォーの巨匠、アルフォンス・ミュシャによるカラーリトグラフです。原画は1901年に制作されました。美しいグリーンのグラデーションの中に繊細でチャーミングな女性の横顔が映し出されます。

本品は、62cm×45cm程度の作品を、20cm角の施釉タイルで表現しました。原画の繊細さを失わないよう細かく釉薬の転写を重ねています。品の良いゴールドの釉薬が隠れたアクセントとなり、女性のドレスの袖(そで)に "Mucha" のサインが丁寧に再現されています。工業製品ながら美術品としての品格を備えた逸品です。

This tile is one of an INAX industrial tile series named "Mucha." It is based on an original color lithograph created by Alphonse Mucha, a master of art nouveau, in 1901. The original work was 62 centimeters by 45 centimeters, and the reproduction is a square tile measuring 20 centimeters by 20 centimeters in size. The intricate artwork of the original is preserved by reproducing the image in a painstaking process with many coats of glaze. This tile stands as an excellent work of art on its own merits.

資料名：「月桂樹」 ●サイズ：199×199×5.5mm ●製作：INAX ●年代：2001〜2010年

＊INAXライブミュージアムはLIXILが運営する文化施設です。 ＊INAX MUSEUMS is operated by LIXIL Corporation.

INAX ライブミュージアム

〒479-8586
愛知県常滑市奥栄町1-130
TEL.0569-34-8282 FAX.0569-34-8283
https://www.livingculture.lixil/ilm/

開館時間――10:00am〜5:00pm（入館は4:30pmまで）
休館日――水曜日（祝日の場合は開館）、年末年始
共通入館料――一般：600円、高・大学生：400円
小・中学生：200円（税込、各種割引あり）
交通――<バス>
●名鉄線「常滑駅」または中部国際空港より
知多バス「知多半田駅」行き
「INAXライブミュージアム前」下車徒歩2分
<お車>
●名鉄線「常滑駅」より約6分
●中部国際空港より約10分
（セントレアライン「りんくうIC」降りる）
●知多半島道路「半田IC」より約15分
●セントレアライン「常滑IC」より約7分
（乗用車・バス駐車場完備）

INAX MUSEUMS

1-130 Okuei-cho, Tokoname-shi,
Aichi Prefecture 479-8586 Japan
https://www.livingculture.lixil/en/ilm

Hours:
Open (Museum & Shop): 10:00-17:00
(Last entry:16:30)
Closed: Wednesdays (Open if the Wednesday is a public holiday), New Year holidays

Admission Fee (tax inc.):
Adults ¥600
High school and college students ¥400
Elementary and junior high school students ¥200

Access
By Bus:
From Meitetsu Tokoname Station or Centrair Central Japan International Airport, take Chita Bus bound for "Chita Handa Station". Get off at "INAX Live Museum-mae". Two-minute walk from bus stop.

LIVING CULTURE

INAXライブミュージアム NEWS LETTER vol.49 2019 | 2019年4月10日発行 発行・編集人 尾之内 明美

カ-29-48 2019.4.10